

新潟県長岡地域振興局長賞

あたりまえを支える税金

長岡市立秋葉中学校

三年 多田 安美香

「あたりまえ」という言葉からみなさんは何が思い浮かびますか？私は日頃の生活が一番に思い浮かびます。毎日のように通っている学校や病気になったときに行く病院など日頃の「あたりまえ」はあたりまえのようであたりまえではないと思いました。

きっかけは、社会の授業で税金の役割について学んだことです。授業では、税金は国や地域を動かすために必要なものでみんなが少しずつ負担することで社会全体を支えていることを学びました。例えば、公園や町の図書館、消防署、警察署は税金で成り立っています。私の住んでいる地域には新しく交流拠点施設ができ、さまざまな設備が整っていますがそれも税金が使われていることに改めて気づきました。

私は中学生海外体験フットワース訪問事業でアメリカに訪れる機会があり、たくさんのことを学ばせて頂きましたが特に印象に残っているものがあります。それは、アメリカでは救急車を呼ぶと数万円の費用がかかるということです。日本では急病や怪

我をしたとき、すぐに救急車を呼べてお金もかかりません。でも、それが「世界ではあたりまえではない」と知ってとても驚きました。そこで救急車を税金で運営することのメリットとデメリットを調べて考えてみました。大きなメリットは誰でもすぐに助けを呼ぶことができ命を救えることです。また、お金がかからないこともありがたいことだと思います。一方でデメリットは、無料だからこそ「本当に必要か」を考えずに呼んでしまう人がいて、本当に必要な人のところに救急車が行くのが遅れてしまうことがあるそうです。救急車は私達一人ひとりが正しく使う意識を持つことが大切だと思います。

ニュースで地震や台風などの自然災害で被害が出た地域に救助や支援物資が送られているのを見たときも、税金の力はすごいなと思いました。災害が起きたとき、すぐに助けが届くのは普段から税金で準備や訓練がされているからだと思いました。

今まで、「税金は大人が払うもの」というイメージがありました。でも、私達中学生の生活も税金によって支えられていることがわかりました。将来、私達が大人になったら税金を納める立場になります。働いたお金の一部を税金として納めることで「あたりまえ」を支えることにつながるのだと思います。これから、「あたりまえ」に感謝し、今の生活がたくさんの支えで成り立っていることも忘れずに過ごしていきたいです。